

[拠点形成概要及び採択理由]

機 関 名	鳥取大学、砂漠研究所、国際乾燥地農業研究センター
拠点のプログラム名称	乾燥地科学拠点の世界展開
中核となる専攻等名	乾燥地研究センター
事業推進担当者	(拠点リーダー) 恒川 篤史 教授 外 16 名
<p>【拠点形成の目的】 鳥取大学は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 乾燥地研究センターを中心とした世界最高水準かつ特色ある研究基盤を前提に、 ◆ 乾燥地科学・砂漠化防止分野の国連・国際機関、海外研究機関で活躍する人材を育成し、 ◆ 世界の砂漠化防止や乾燥地由来の地球環境問題（黄砂等）に関する研究活動を行い、 ◆ 世界の乾燥地研究をリードする中核的教育研究拠点（グローバルCOE）を形成する。 <p>本拠点形成の目的は、以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 世界に通用する人材の育成：教育システムを改革し、国連・国際機関、海外研究機関への就職者数を増やすこと (2) 世界最高水準の研究活動の推進：研究システムを改革し、開発された技術・得られた知見の実用化・普及、乾燥地保健医学の体系化、黄砂問題等への貢献に取り組むこと (3) 世界学術ネットワークの形成：連携システムを改革し、世界ネットワークの構築と国内ネットワークとのリンクにより「グローバルCOE」を構築すること <p>【拠点形成計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人材育成の目標とそれを実現するための取り組み <ol style="list-style-type: none"> 1) 博士課程入学・博士号取得者数の増加：研究者・実務者養成カリキュラムの分別と強化、全学的な乾燥地科学教育の実施、副専攻制の導入・実施、博士学生に対する経済的支援 2) 学会・論文発表数の増加：優秀な助教に対する独立研究環境の整備と研究資金の提供、研究重点助教制度の創設、学会・論文発表に対するインセンティブの付与 3) 英語能力の向上：英語試験の定期的受験の義務化と支援、英語研修の実施、海外への派遣 4) 国連・国際機関・国際協力機関への就職者数の増加：博士号取得後の国連・国際機関への就業支援（経済的補助を含む）、語学・プレゼン研修、組織的な就職情報の収集 5) 研究機関、とくに海外研究機関への就職者数の増加：ネバダ砂漠研究所との共同教育プログラムの創設、乾燥地研究センターに保健医学部門の専任教員ポストを設置、新規教員採用 (2) 研究活動の目標とそれを実現するための取り組み <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究活動の活性化：研究活動の質の向上（オリジナリティの高い世界最高水準の研究）と量的増加（査読付き論文数の増加）に対するインセンティブ付与、他機関との連携による研究成果の社会への還元（開発された技術の乾燥地の現場への普及） 2) 研究基盤の整備：国際的研究環境の構築、優秀な若手研究者が独立して研究に専念できる環境の整備、優秀な若手研究者への経済的支援、研究施設・設備の充実 3) 研究の推進と連携：以下の5つの研究グループの設置。環境修復グループ「広域的な塩類集積地改良技術の開発」、農業生産グループ「乾燥地における持続性のある環境保全型生産技術の確立」、分子育種グループ「耐乾性コムギ系統の育種とその普及」、保健医学グループ「乾燥地住民の健康レベル向上のための健康・地域政策の立案」、地球環境グループ「黄砂発生の生物物理学モデルの開発」。さらにグループ間連携研究を並行して実施。 (3) 国際連携の計画 本拠点は、砂漠研究所および国際乾燥地農業研究センターと連携して形成する。 <p>砂漠研究所（Desert Research Institute: DRI、米国・ネバダ）は、乾燥地地球科学の研究で世界最高水準にある。同時に乾燥地研究所グローバルネットワーク（Global Network of Dryland Research Institutions: GNDRI）の中核機関でもある。DRIとの連携により、本拠点の乾燥地地球科学分野での研究水準の向上、GNDRIを利用した国際連携の強化、および大学院教育の強化を図る。</p> <p>国際乾燥地農業研究センター（International Center for Agricultural Research in the Dry Areas: ICARDA、シリア・アレppo）は、国際農業研究協議グループ（Consultative Group on International Agricultural Research: CGIAR）傘下の国際研究機関である。乾燥地農学分野で世界最高水準にある。アジア・北アフリカ地域の乾燥地ネットワークである「CWANA+ ネットワーク」（Central and West Asia and North Africa <CWANA> and neighboring dry areas network）を国連大学とともに構築しており、当該地域の研究機関と多くの共同研究・共同研修を実施している。ICARDAとの連携により、本拠点の乾燥地農学分野での研究水準の向上、CWANA+を利用した国際連携の強化、および本拠点で開発された技術の実用化・現場への移転促進を図る。</p> 	

機 関 名	鳥取大学、砂漠研究所、国際乾燥地農業研究センター
拠点のプログラム名称	乾燥地科学拠点の世界展開
<p data-bbox="180 226 327 259">〔採択理由〕</p> <p data-bbox="165 264 1434 333">乾燥地科学の研究を目指す世界的教育研究拠点として、将来構想が明確になっており、これまでの教育研究活動の実績も高く、計画全体が機能的に優れた特性を持ったプログラムである。</p> <p data-bbox="165 338 1434 488">人材育成面においては、拠点形成計画の目的である乾燥地科学に対応して基礎学力と創造性を培うカリキュラムや、指導体制が計画されており、特に海外インターシップやマネジメント技術習得への取組や、21世紀COEプログラムにおいて際立った成果を挙げていることは高く評価できる。教育成果の社会への還元も計画に良く組み込まれている。</p> <p data-bbox="165 492 1434 642">研究活動面においては、質の高い研究成果を有し、海外の重要拠点との国際的なネットワークや国連大学との連携が構築されており、研究の実効性も期待できる。国内で唯一の乾燥地研究のセンター（オンリーワン）という地域の特色を活かした活動に特化した研究戦略が明解に位置付けられている。</p> <p data-bbox="165 647 1434 752">ただし、拠点形成に関してこれまで以上の具体的戦略が見え難く、5つの研究課題はそれぞれ重要ではあるが、重点的な絞込みが必要である。この点に関しては、計画の実現に向けて更なる工夫・検討が望まれる。</p>	